

提案名	大賀建設「GREEN ECO II」～持続可能な木造住宅の形成～	分野	木造等循環型社会形成の分野に係る提案
提案者	大賀建設株式会社	種別	システム提案
構造	木造住宅（在来軸組）	建て方	一戸建ての住宅

■提案の基本的考え方

地球規模での「環境問題」「資源・エネルギー問題」が問われている昨今、大賀建設では「森林環境の保全と循環型社会の形成に貢献する」という理念を掲げ、「環境負荷の低減（CO2 排出量の削減）」「持続可能な住環境の創出」「森林資源の有効活用」の3つの基本要素を取り組んだ、前回提案「大賀建設 GREEN ECO 先導的モデル」に、環境共生住宅の考え方「地球環境の快適性 ～LOW IMPACT～」「周辺環境との親和性 ～HIGH CONTACT～」「居住環境の健康・快適性 ～HEALTH&AMENITY～」の3つの基本要素を追加して本提案を取り組む。

さらに、住宅を長期間に渡ってサポート可能な体制を確立させることで、前回提案を「深化」「拡充」し、次世代の子供たちへ継承できる「持続可能な森林管理と住環境の形成」を図り、社会貢献の価値を高め、地域に根ざす住環境づくりに寄与する。

大賀建設「GREEN ECO II」～持続可能な木造住宅の形成～

「森林環境の保全と循環型社会の形成に貢献」に向けた基本戦略



■提案内容

環境

環境 ECO 対策

森林認証材等の合法木材の活用により、地球資源の持続可能な森林管理と、森林のCO2 吸収による地球温暖化防止に寄与する。また、環境共生住宅基準と CASBEE-すまい(戸建)の基準をもとに「省エネ」「省資源と廃棄物抑制に役立つ」材料を積極的に利用し、環境負荷の低減に大きく寄与する。

省エネ（自立循環型住宅）

相当隙間面積[C 値]1.0c m²/m²以下」で室内環境を向上させ、自立循環型住宅の設計により、居住時のエネルギー消費量を 50%にまで削減することを目標とする。2000 年頃の標準的な住宅と比較して住宅におけるCO2 排出量を削減し、地球環境に寄与する。

構造

生活快適空間マトリックスII

日常生活の使い勝手、住みやすさを徹底的に追求した「長持ちさせるに値する住宅」の設計により、建替え工事が減少し、リフォーム住宅や中古住宅における付加価値を向上させ、持続可能な住環境の形成を可能にする。

耐震等級3

「耐久性」「耐震性」「劣化性」に優れた「構法・工法」で、数百年に一度発生する地震の地震力に対して倒壊、崩壊せず、建替えをする建物を減らすことにより、持続可能な木造住宅を可能にする。また、建物の強度とバランスを向上させるための設計基本ルールを作成し実施する。

景観

まちなみ景観マトリックスシートⅡ

「外観デザイン」「玄関・庭まわりの演出」「緑の演出」「隠すと見せる」「省エネ・ECO」で構成されたチェックシートで建物と外構の両面から良好なまちなみ、及び居住環境の形成を行う。

ロングライフサポート

光熱費シミュレーションソフト

月々光熱費（電気・水道・ガス）を、EXCELを使用して簡単に入力し、グラフ化することにより、毎月のランニングコストを住まい手が管理でき、住宅からの生活エネルギー（光熱費のランニングコスト）による「省エネに対する意識の継続」を可能にする。

長期維持保全プログラム

入居してからの維持保全計画を経過年数によりグラフ化し、住まい手でも計画的に維持管理を可能にする。また、定期的な点検により計画的な維持管理をサポートする。

リフォーム事業

アフターメンテナンスとリフォーム事業が、共通した住宅履歴情報を使用することで、持続可能な木造住宅を創出し、長く住み継ぐことが可能になるように支援する。

<p>森林認証材の有効活用</p> <p>流通ルートで合法木材を仕入れ、第三者機関による木材・木材製品の証明書を発行する</p> 	<p>省資源・廃棄物抑制</p> <p>構造躯体における再生可能材料等を採用し、廃棄物を減らす</p> <p>省エネ・省資源 コスト削減 排出物の削減</p> <p>GREEN ECO仕様材料</p>	<p>優れた耐震性能</p> <p>独自の設計ルールに基づき耐震等級3の性能を確保</p>  <p>耐震等級3</p>
<p>省エネ・ECO</p> <p>自然エネルギーを活用し、居住時のCO2排出量を50%削減を目指す</p> 	<p>構造躯体の耐久性</p> <p>気密性能を向上させて構造躯体の耐久性を向上</p> <p>電力消費量 約 22%削減 年間CO2吸収量 約 42本分削減</p> <p>劣化対策等級3</p> <p>相当隙間面積[C値]1.0cm²/m²以下</p>	<p>省エネ意識の継続</p>  <p>光熱費シミュレーションソフトの提供</p>
<p>省エネ等級4</p> <p>自立循環型住宅の設計</p> <p>メンテナンス性の向上</p> <p>定期的な点検・維持管理がしやすい床下空間を確保する</p> <p>維持管理対策等級3</p> <p>さや管ヘッダー工法 床下進入口2箇所設置</p>	<p>住宅履歴情報の公開</p> <p>顧客情報と住宅情報のトレーサビリティを可能にしたシステムの整備と更新</p>  <p>ロングライフサポート[顧客管理システム]</p>	<p>安心の維持管理システム</p> <p>建業後、最長80年まで維持保全の時期が確認できるプログラムの実施</p>  <p>長期維持保全プログラム 点検・記録シート</p>

■提案者からのコメント

前回採択提案からの「追加」「深化・拡充」を新たな取り組みとしてプラスした相乗効果で、地球環境への負荷をできる限り低減される社会に寄与するものとし、木造住宅での「省エネ」「CO₂削減」を広く国民に提示し普及啓発を図り、環境問題への個々の意識の向上に期待する。

また、長期優良住宅の「認定制度」を税制や金融等に積極的に活用し、長期優良住宅の普及を促進できる環境整備をお願いしたい。